## 第 3 回全体研究会

テーマ：“Managing Hegemony in East Asia: China's Rise in Historical Perspective”
日　時：5 月 29 日（水）18：00～19：30
場　所：大学院校舎 8 階・東アジア研究所共同研究室 1
講　師：Yuan-kang Wang（ウェスタン・ミシガン大学）
（東アジア研究フェロー）
使用言語：英語

概　要：

第3 回全体研究会では、著書Harmony and War： Confucian Culture and Chinese Power Politics 執筆以降、中国のパワー・ポリティクスをめぐる議論を精力的に展開するWang 氏を招いた。Wang 氏は現代中国の対外拡張を理解する上で中国と国際関係を歴史的文脈から捉え直す議論を展開した。Wang 氏はまず「帝国（empire）」と「覇権国家（Hegemon）」を区別する必要を説き、後者は物質的な能力や軍事力を追求する点で帝国とは異なり、①パワーを追求し、②みずからの統治を安定化させるために統治システムとしての「ゲームのルール（rules of the game）」を設置する、とした。そしてアメリカと清朝の「覇権国家」としての特徴を比較しつつ、清朝の歴史を、満州人による建国、中国支配、支配の安定化、西漸する拡大過程の四つに分けて概観した。そして「覇権国家」となった清朝がアジアに設置した「ゲームのルール」すなわち朝貢制度は、西洋諸国に対する清朝の敗北とともにウェストファリア体制に置き換わったものの、中国がアメリカとの経済格差を縮小し、軍事費を増大させている現況においては、中国とアメリカの安全保障上のジレンマはますます高まるであろうと結論した。

質疑応答においては、まず物質的動機が他の要因よりも重要であるとするWang 氏の主張への疑問が呈された。これに対しWang 氏はより丁寧に、物質的能力が国家の覇権を生み出し、またこれを維持する上で大きな要因となる過程について説明した。さらに、中国の対外拡張がかくも攻撃的である理由はどこにあり、この「攻撃」はいつ「防衛」に転じるのか、習近平の今後の外交戦略は何か、といった質問も出された。これらの質問に対しては、指導者の意図が見えにくいため、今後の中国の対外拡張の行く末を占う上での不確定要素が大きいとWang 氏は応答した。中国の対外拡張という問題に対して参加者の関心はきわめて高く、活発な会合となり、会合後もWang 氏のペーパーを希望する参加者が続出した。